

杉の子

奥多摩町立氷川小学校
学校便り 4月号
令和7年 4月7日発行

「子供が主役、明日が待ち遠しい学校」を目指して 校長 小林 亮介

暖かな春の日差しが心地よい季節となりました。正門をくぐるときれいな桜が満開を迎え、本校の子どもたちの入学と進級を温かく祝ってくれています。

令和7年度が始まりました。お子様の御入学、御進級おめでとうございます。今年度も氷川小学校の校長を務めさせていただきます小林 亮介です。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、令和7年度は新入生10名を迎え、全校児童52名でスタートしました。奥多摩の豊かな自然と地域の力を生かした教育活動を教職員一丸となって取り組んで参ります。保護者、地域の皆様、本校の教育活動に対し御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。限られた紙面ですが、本校の教育目標と学校経営方針の一端について御説明させていただきます。

本校の教育目標

○自ら進んで学ぶ子（知） ◎仲よくやさしい子（徳） ○健康で明るい子（体）

令和7年度は「子どもが主役、明日が待ち遠しい学校」を学校経営の中心に据えた教育活動を進めて参ります。学校の主人公は「子供」であり、一生涯にわたって活躍するためには「未知なる社会を生き抜く力」を身に付けさせることが学校の使命であると考えます。しかし、その基盤には温かい人間関係が必要であり、子供同士、子供と教師の豊かなかかわりが必要です。子どもたち自身が「みんなと一緒に学びたいな！」「早く友達や先生に会いたいな」「学校って楽しいな！」「早く明日にならないかな！」という思いに溢れた学校づくりに励みます。また、学校生活における様々な場面や活動において「人の役に立つ喜びを感じる学校」「諦めないで挑戦することを大切にする学校」「子どもたちの健全な心と体を育む学校」を目指して参ります。

私事ですが、我が家には3人の娘がいます。3人とも既に小学校を卒業し長女が今年の4月から社会人としての生活をスタートさせました。次女は大学3年生、三女は今年大学生となりました。恥ずかしながら、私自身、子育てに苦労し自慢できることは何一つありません。また、我が子といえども一人の人格を持った子供を育てるということは楽しいことばかりではありませんでした。しかし、ただ一つ言えることは「幸せになってほしい」ということを願ってきました。それは今も変わりません。きっと保護者の方々も同じことを思っているのではないのでしょうか。

では、幸せって何でしょう。いろいろな捉え方や考え方がありますが、私が考える幸せとは以下の通りです。

- ・自立して自分でお金を稼ぐこと
- ・自分のやりたいことに挑戦できること
- ・人のために心も体も使い「ありがとう」と感謝される人になること
- ・多くの友人と笑い合えること
- ・困難なことがあっても前を向いて歩くことができる人

私は校長として、本校の子どもたちにも「幸せな人生を送ってほしい」と思っています。

令和7年度も教職員一丸となり、様々な教育活動を通して「優しさや思いやりのある心」を育てること、「学びの充実」を図り小学校教育で学習する基礎的・基本的な内容の定着すること等、「幸せな人生を送る土台づくり」を目指して参ります。

今年度も保護者、地域の皆様の温かい御支援の程、よろしくお願いいたします。